

2022 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部 土木建築学科土木教室 蘇遙会

2022 年 9 月 1 日発行

三都市シンポジウム 2021 in 熊本 「車座ディスカッション」

@下通りアーケード 2022.6.25

熊本・岡山・金沢の大学生たちが「まちなかの居場所と
新しいライフスタイル」について話し合いました。
(田中尚人准教授提供)



[発行]
蘇遙会事務局

〒860-8555

熊本県中央区黒髪 2 丁目 39-1

熊本大学工学部土木建築学科
土木教室

Tel: 096(342)3544

Fax: 096(342)3507

E-mail soyukai@kumamoto-u.ac.jp

HP <https://www.web-dousoukai.com/soyukai/>

土木教室の教員らが第 4 回アジア・ 太平洋水サミットに参加しました

水質環境学研究室 伊藤 紘晃 助教

2022 年 4 月 23~24 日に熊本城ホールにて第 4 回アジア・太平洋水サミットが開催されました。この「サミット」の本体会議はアジア太平洋地域諸国の首脳・閣僚級や国際機関の代表らによる会議ですが、行動の実態を提言する役割を担う分科会に土木教室の教員らが関わりました。また、サイドイベントとして開かれた現地展示会にも関わりました。

まず、第 4 回アジア・太平洋水サミットですが、熊本市は地下水資源の持続的な利用の取り組みについての国内外で高い評価を受けており、今回、熊本市に招致されることとなりました。サミットの核である首脳級会合においては、水問題に関する首脳級の決意を取りまとめた文書である「熊本宣言」が採択されました。これを受け 9 つのテーマに関する「分科会」が設けられ、各分科会において国内外の関連機関とともに知見の共有と議論を行い、今後、取り組むべき行動についての提言がまとめられました。

このうちの分科会 9「地下水を含む健全な水循環」の共同主催機関を熊本大学が務めました。分科会は川越保徳教授がモディレーターを務め、石田桂准教授がプレゼンターの 1 人を務めました。本分科会においては、熊本の事例を含め、アジア太平洋



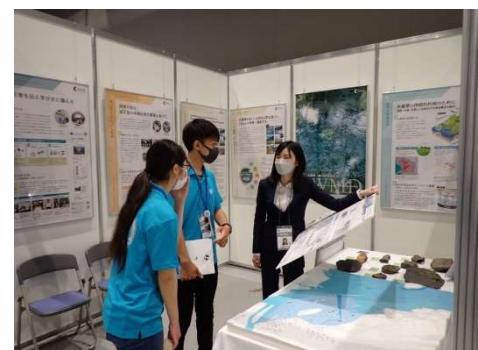
写真:小川久雄熊本大学学長による分科会の開会挨拶

地域における水循環の現状・地域特性を踏まえた上で、「質の高い社会を構築するための健全な水循環の維持・回復」をテーマに議論がなされました。

また、サイドイベントの現地展示会には熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センターとして出展し、柿本竜治教授（センター長）、松村正秀教授、金洙列教授、安藤宏恵助教、伊藤紘晃助教を含めセンターの教員らで水、減災、地域デザイン、災害アーカイブ等についての取り組みの展示を行いました。

写真左:分科会のセッションの様子

中:分科会での石田准教授の発表 右:現地展示会の様子



ご挨拶

蘇遙会会長 山尾 敏孝

蘇遙会会員の皆様におかれましては爽やかな日々をお過ごしのことと思います。今年も情報誌をお届けしますが、冊子の記事に是非目を通して下さい。現役の学生の活動状況、卒業生の寄稿や教室からの情報を満載しております。これらの記事を読み、母校を想うきっかけや友人との会話の話題にしていただけたらと思います。蘇遙会は土木系の卒業生と現役の学生及び教職員をつなぐものであり、皆様が楽しく交わり親睦を図る場もあります。面白い話題や後輩に役立つ話題をお持ちであれば、是非この蘇遙会情報誌への投稿をお願いします。

今年は、"3年ぶりに〇〇を開催しますとか、3年ぶりに△△会が開かれました"とのフレーズがメディアで見られる様になりました。人と人との交わり、あるいは伝統や活動の継承のためにもこれ以上中断すると今後の対応が難くなるとの危機感からだと思います。蘇遙会の同窓会活動も同様です。今後もコロナが完全に無くなることは無理かと思いますので、感染対策をしっかりと、同窓会活動の根幹である卒業生同士の交わりを徐々に再開したいものです。各地で同窓会が開かれ、開催報告や便りが蘇遙会事務局へ届くことをお待ちしています。

蘇遙会運営委員会では、今年こそ対面開催できないかと事務局で検討したところ、運営委員長のご配慮により、オンライン出席が可能となり、対面出席とのハイブリッド会議として開催できました。今年度の蘇遙会運営委員長は円山琢也教授（学科代表）、土木教室の2年生担任は石田桂准教授です。円山教授はこの4月に教授になられたばかりですが、先生の優しい人柄は学生達に好かれているようです。また、学生部の方も学部3年の中村海 部長、川端孔耀 副部長と下川智大 会計ら6名の幹部が決定しました。オンライン出席は、東京支部の坂西さん、大分支部の石和さん、昨年度学生部長の藤田さん、今年度学生部長の中村さんで、熊本支部の上月さんは対面出席し、他の出席者と楽しく意見交換ができました。

今年の活動として、新入生歓迎の親睦のバーベキューが早速開催されました。今後も活動コンセプト「繋ぐ」に沿って、コロナの感染対策をしながら蘇遙会の活発な活動を望みたいものです。今までできなかた活動ができ、繋がりを広げて実りある学生生活を期待したいと思います。

最後にお知らせです。私は、今年の6月の工業会定例役員会で第

16代会長に選任されました。土木系の会長は、第8代の本田茂氏以来です。蘇遙会会長と併せて精一杯務めたいと思いますので、会員の皆様には、蘇遙会並びに工業会のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

熊大土木の広報力をさらに強化する1年に！

土木建築学科長 円山琢也

卒業生の皆様には、日頃から土木教室へのご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。令和4年4月から前任の辻本先生より引き継いで土木系の教室長を仰せつかっております。令和4年度は土木建築学科長も担当しております。経験の浅い身ではありますが、教室の発展のため尽力したいと思います。

コロナ禍で不自由な教育研究環境が続いているが、3月の卒業式は、密を避ける対策をとり対面で実施することができました。本教室からは80名の学部卒業生と39名の博士前期課程修了生が卒立っていました。

教室教員の異動を紹介します。令和4年3月に森山仁志助教が退職され、4月から徳島大学講師にご栄転となりました。新天地でのご活躍も祈念しております。また、令和3年8月に高知大学から張浩教授が本学科に着任し、令和4年4月より福岡大学から吉城秀治准教授がくまもと水循環・減災研究教育センターに着任しました。張先生の専門分野は「土砂水理学、河川工学」、吉城先生の専門分野は「交通計画、子育てしやすいまちづくり、地理情報学」です。お二人とも教室の教育・研究等に大きな貢献が期待できる先生方です。

さて、建築系と一緒に学ぶことになり1年時は土木建築学科として入学し、2年時に土木系と建築系の教育プログラムに分かれる方式となり4年が経過しました。当初は高かった土木建築学科の入試倍率は、最近、若干の低下傾向にあります。また2年進学時の学生の志望は土木系より建築系のプログラムの人気が高い状況が続いています。この状況は、高校生や本学科の1年生に、土木教室の教育・研究の強みのほか、土木の魅力・仕事のやりがい等を適切に伝えきれていないためと考え、本年度は教室を挙げて熊大土木の広報力を強化することをめざしています。

この広報力強化については、若手の教員が中心となり、学生に近い若くて柔軟な発想を生かし、教室のホームページ等のさらなる充実、コロナ禍で 2 年間オンライン開催となっていたオープンキャンパスの充実、1 年生向けの説明会の企画などを試みています。卒業生の皆様には日頃からインターンシップや各種講演会など様々な形でご支援をいただいているところですが、社会で活躍されている熊大土木の卒業生を高校生や 1 年生にさらに幅広く周知する方法も検討しているところです。今後とも様々な面で、本教室へのご支援とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

寄 稿

ゼネコン体験記

土木工学科 昭和 56 年卒 正木 寛雄 氏



昭和 56 年に卒業し、デスクワークが嫌で「生涯一現場マン」としてダムなどの大型構造物の建設に携わりたく間組（現在の安藤ハザマ）に入社しました。

入社以来、40 歳位になるまでは火力発電所、高速道路、大規模造成、地下鉄などの工事事現場に配属され、勤務地も名古屋、関東、関西とまさにゼネコンマンの王道を行くような経験でした。自分の関わったインフラが日本の各地で地域住民の暮らしを支えていることは建設工事に携わった者として何よりも誇りです。

プライベートでは、30 歳頃赴任した大阪で今の家内（沖縄生まれの関西育ちのほとんど大阪人）とめぐり逢い、無事結婚でき現在も夫婦継続中です。そのうちに夫婦で自分が関わった現場巡り旅行をするのも楽しみです。

「生涯一現場マン」のつもりでしたが、40 歳を過ぎた頃から支店、本

社の管理部門に配属になり、新規工事受注のための営業支援や会社全体の事業計画遂行に関わりました。現場とは業務内容が全く違い最初はいろいろ戸惑いましたが、ゼネコンという企業の側面から見ればいろいろ面白い経験ができました。

4 年前に安藤ハザマを卒業し、現在はグループ会社でセグメントなどの P C 製品製造に携わっています。山口生まれで熊大卒業後 7 回の管外転勤を重ね、今は大阪に家族を残し東京単身赴任中です。この間、公私にわたり熊大出身者を始め沢山の方々との素晴らしいめぐり逢いが節目節目があり、今日に至っていることは私の財産です。

最近はゼネコン希望者が本当に少なくなっていると聞きます。私の体験談で益々ゼネコン離れが加速しないか心配ですが、そのゼネコンも DX の推進等で昔と大きく変わってきています。ただ、唯一無二の「皆さんの幸せのためのものづくり」が原点という部分は不变です。これから社会に出てゆかれる学生諸君に一言 「ゼネコンにいらっしゃい！」。

ワークライフバランス

土木工学科 平成 3 年卒 栗崎 博文 氏

私は大学卒業後、九州旅客鉄道株式会社（以下、JR 九州）に入社しました、線路や土木構造物のメンテナンスや鉄道高架化工事や新幹線工事等に携わってきました。現在は JR 九州のグループ会社である九鉄工業株式会社（以下、九鉄工業）にて勤務しております。九鉄工業は、今年で創業 80 年の鉄道工事に強みを持つゼネコンとして、完成工事高で九州 2 位の会社です。現在、私は、会社の経営方針や事業計画を策定したり、将来ビジョンを検討したりする仕事を行っています。みなさんもご承知の通り、コロナ禍で鉄道も影響を受ける中、建設 DX による生産性向上や鉄道工事以外の公共事業・民間開発の土木・建築工事の受注拡大の取り組みを行っています。



※会社の仲間とのサイクリング（耶馬渓サイクリングロードにて）写真中央が私です。

休日の過ごし方としては、趣味のロードバイクでサイクリングを楽しんでいます。会社の中にも、同じ趣味の仲間がいて、輪行（りんこう：自転車を持って鉄道で移動すること）で九州各地の景勝地等を走ったりしています。自転車はコロナ禍でも手軽にできる趣味としてちょっとしたブームになっていますので、みなさんも試してみられてはいかがでしょうか。

自己史と最近の長大橋関連業務の紹介

土木工学科 平成 3 年卒/5 年修了 三輪 清貴 氏

私は S62 年入学、H3 年卒、H5 修了(崎元研)しました。

末期の平成バブル期入社組みとして新日鐵(日本製鉄㈱)に入社、巨大構造物の建設に携わりたいとの希望が叶い



橋梁ケーブル部門に配属。室蘭の白鳥大橋で渡海前に新入社員現場研修、明石海峡大橋の主ケーブル架設現場で 2 年目研修、来島海峡大橋ケーブル工事入札準備室に配属されました。逸注したら首だと噂される中、無事に工事を受注することができ、完成するまで今治の現場に元請の新米技術者として赴任しました。

長大橋建設バブル末期で今度は建設が終わったら首と噂される中、諸先輩方の功労で来島開通直後に韓国釜山の廣安大橋の業務を受注して赴任し、日韓ワールドカップを現地で観戦。その後も米国シアトル郊外の新タコマ橋、ベトナムのカントー橋の現場に赴任。しかし橋梁談合事件の煽りを受け子会社、孫会社、合弁会社に異動となり、長大橋建設に携わる事が出来なくなり転職しました。転職後はカタール・ドーハ郊外のルサイル吊橋建設現場に赴任と国内外の現場を渡り歩く人生でした。

子供が小学生低学年までは家族で現場近くに引っ越ししていましたが、米国赴任を最後にその後は単身赴任、妻が病に倒れ現場赴任の無い今の会社（東京製綱㈱）に転職しました。

転職後はトルコの第一ボスボラス橋主ケーブル補強ケーブルやルーマ

ニア・ブレイラ橋の主ケーブル・ハンガーの設計製作管理、ベトナムのニールセン橋ケーブルの設計製作などを担当しています。欧州の案件では建設資材に CE マーキングに相当する認証が必要でその取得業務や、鋼橋小委員会の委員として道路橋示方書の改定や鋼道路橋設計便覧の改訂・道路橋ケーブル構造便覧の執筆、橋梁ケーブルの国際規格 ISO 19203/19427 制定のための国際専門委員会での WG 業務なども担当させていただきました。

将来の目標は橋梁ケーブルの専門家として国内外の長大橋建設や維持管理、ケーブル製作架設時の CO2 削減に貢献する事、若手技術者の育成と技術の継承（中途・新卒・経験者・未経験者問わず募集集中です）、チャナッカレ橋を超える世界最大の吊橋建設に日本の技術で貢献する事です。

次世代の人材を育てています

土木環境工学科 平成 9 年卒/13 年/16 年修了

松村 新也 氏

学生時代を振り返りますと、山尾敏孝先生の優しく丁寧なご指導や、平井一男先生の竹ひごを使った授業、イラストが入った教科書を用いた崎元達郎先生の授業などが懐かしく思い出されます。8 号館での構造力学研究室の日々も忘れられません。私は現在、県立高校の教員をしていますが、先生方の生徒に寄り添った分かりやすい授業を目標にしながら、ものづくりをする次世代の人材を育てています。



高校の教員になって現在までの 18 年間、土木の教科指導をしながら担任を 3 回、図書部長、情報部長、土木科主任等を経験し、現在は進路指導主事として進路指導に携わっています。計画的な高校 3 年間の進路指導により、担任を中心とした全職員と連携・団結し、生徒にとってより良い進路先へ導く仕事です。生徒が進路指導室に笑顔で合格を報告しに来たり、卒業生が大きくなった姿を話しに来たりするのは大きな喜びです。進路指導は生徒の卒業後の人生にも大きく影響します



災害復旧活動の様子

後から生徒達と共に災害復旧ボランティアで汗を流しました。人力では畳一枚分の土砂の除去にも相当な労力を要し人間の力の小ささを感じました。生徒達は防災や減災といった土木技術が担う使命を改めて体感したものだと思います。人吉球磨地区は一日一日元気を取り戻しています。全国からの御声援に心より感謝申し上げます。

日々成長する高校生に、これからもより分かりやすく土木技術を伝えたいと思います。教員は楽しいです。在学生のみなさん、将来の進路選択の一つとして教員を目指してみませんか？

妻、母、そして「土木人」として

社会環境工学科 平成 23 年卒/25 年修了 小拂 智絵 氏

大学院修了から 9 年、妻、母、そして土木人として、何か皆さまにお伝えできることがあればと思い寄稿させて頂きます。

私は 2011 年に大学院に進学し、複合材料研究室にてコンクリートのひび割れ進展機構について研究しました。大津先生をはじめ、技術職員の友田さん、諸先輩方にご指導頂きながら、「遊ぶ時は遊び、研究も頑張る！」そんな大学生らしい日々を仲間と過ごすことができました。

大学院修了後は高速道路関係会社に就職し橋梁保全事業に従事しておりましたが、家業の（建設会社・生コン工場他）を継ぐべく、出産を機に大分県に U ターン。現在は、生コン事業を統括し、中流動コンクリート、再生骨材を使用したコンクリートなど、生コンの配合設計、製品開発に取り組んでいます。製品開発では試験練りが必須ですが、その基礎は全て研究室で教わりました。「砂を握って手を広げたとき、砂が

し、企業や上級学校関係の方々とのより良い関係を構築する力も求められる大事な仕事ですので、緊張感を持って職務に当たっています。

さて、私が勤務する球磨工業高校がある人吉球磨地区は、令和 2 年 7 月豪雨により甚大な被害に遭いました。直

崩れればこれが表乾つたい」友田さんの教えが今でも役立っています。

U ターン後の日々を振り返ると、地方で会社運営する難しさに苦悩することもありましたが、同時にやり甲斐も強く感じています。今後は、生コン分野の DX 化、環境負荷低減問題について、全国の生コン会社と協同して活動の幅を広げていくつもりです。

ちなみに、夫と出会わせてくれたのも熊大土木でした。最近、建設コンサルタント出身の夫と新たに会社を立ち上げ、「親愛なるコンクリート」という意味も込めてディアコン（Dear Concrete, Dear Construction）と名付けました。

3 人の母となった今、【子育て + 会社経営】は楽なものではありません。しかし、我が子にも自分と同じような充実した大学生活を送って欲しい。そんな風に思いながら日々を過ごしています。末筆になりましたが、蘇遙会の皆様の益々のご活躍を祈念致します。

熊本大学で得たもの

社会環境工学科 平成 23 年卒/25 年修了 原嶋 香菜子 氏

私は約 10 年前に大学院を修了後、熊本県庁で土木職員として働いています。

大学では「地域風土計画研究室」に在籍、入庁後は、菊池地域での道路改良や天草地域での河川海岸整備等を経て、現在は「球磨川流域復興局」という部署で、R 2 年 7 月豪雨からの復旧復興に携わっています。

大学時代は、県内外のまちづくりの現場に足を運び、各地でワークショップやまち歩きを行っていました。当時、文化的景観や世界遺産の関係で携わっていた天草の崎津地区の方とは、社会人になった今も交流が続いているです。

私が大学に通って良かったと思うことの一つは、研究室の活動を通して住民の方々と接する機会がたくさんあったことです。行政の立場になると、双方構えてしまいなかなかフラット



な会話ができない場面があります。地元の学生だからこそ、話してもらえる本音や、立ち入れる場所があったんだなと感じています。研究室で取り組んでいたことが直接仕事に繋がることは多くはありませんが、だからこそ大学でしか経験できない、本当に価値のある数年間だったと思っています。

現在の部署では、被災した集落の再建に向けて、各市町村や国交省と協力しながら業務に取り組んでいます。再建にあたっては、住民の方が大切にしていることに寄り添いながら、行政としてできることを考えなければならず、悩みながらもやりがいを感じています。

在校生の皆さんには、大学生だからできること、その時自分がやりたいと思うことに積極的に取り組んでもらいたいなと思っています。ここ数年はコロナで制限されることも多く苦しい思いもされているかと思いますが、人の交流や、一人旅でも何でもいいので、時間がないとできないことをたくさん経験してもらいたいです。

もし興味があれば、就職の選択肢の一つに熊本県庁を入れてもらえると大変嬉しいです。

出前講義レポート

2021 年度蘇遙会学生部部長 4 年 藤田知大

2021 年度も蘇遙会東京支部の方々のご協力のもと、出前講義を実施していただきました。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりオンライン開催となりました。オンライン開催となると一方通行の講義になりがちですが、OB、OG の方々と学生とが活発にコミュニケーションを取れるように少人数に分かれての座談会という形式をとっていただきました。B3、M1 合わせて 70 名の学生を 6 グループに分け、講師の方々を公務員/インフラ、コンサル、ゼネコン/メーカーの 3 つの職種に分け、学生のブレイクアウトルームに移動していただき、各部屋で経験や仕事内容



オンライン出前会議の様子

の紹介、学生からの質疑応答を座談会形式で進行させていただきました。

講師の方々からは、詳しい仕事の内容だけでなくその魅力や大変なこと、私生活と仕事のバランスなど、社会人としてのリアルなお話を伺うことができました。また、その業種を志望した理由や、就活について、学生時代をどのように過ごしたか、など同じ大学の先輩として自分たちに照らし合わせやすい話もたくさん聞くことができました。1 日のうちに様々な職種のお話を聞くことで自分の視野を広げることができ、これからの大学生活を見直す貴重な材料となりました。

コロナウイルスの影響を受け、2 年連続でオンラインでの出前講義となり、直接お話を伺うことは叶いませんでしたが、オンライン開催であったからこそ多くの OB、OG にご参加いただくことができ、大変貴重な機会となつたと感じています。

出前講義で学んだことから将来についてもつと深く考え、勉学などに注力し、先輩方のように社会で活躍できるように私たち学生も励んでいこうと思います。

最後になりますが、お忙しい中出前講義にご参加いただいた先輩方に御礼申し上げるとともに、企画・実施にご協力いただいた蘇遙会東京支部の皆様、オンライン講義の運営にご協力いただいた。昨年度の B3 担任の棕木先生に心より感謝申し上げます。

ご協力いただいた講師の皆様、ありがとうございました

菊池 良介 様	S53/S55	吉永 旭 様	S60
松木 重夫 様	S61	柏原 裕彦 様	S62
坂西 由弘 様	H18/H20	山本 健次郎 様	H18/H20
渡辺 佑輔 様	H18/H20	楠 隆志 様	H21
佐々 和樹 様	H21/H23	内藤(池田)有希 様	H21
野崎 渉太 様	H22/H24	古賀 圭一郎 様	H22/H24
田頭 唯人 様	H23/H25	西山(佐々木)菜緒 様	H27
秋山 秀樹 様	H28/H30	牛塚 悠太 様	H28/H30
大谷 昌嗣 様	H28/H30	福島 大介 様	H28/H30
上原 隆志 様	H29/H31	川浪 健太郎 様	H29/H31
川野 倫輝 様	H29/H31	古屋 徹 様	H29
吉塚 卓史 様	H29/H31	伊津野 省吾 様	H30/R2
河北 一星 様	H30	衛藤 匠吾 様	H31/R3
日高 陵 様	H31/R3	※氏名(旧姓) 卒業年/終了年	

支部だより

支 部	担当者氏名(卒年 G:学部/ M:修士または博士前期/ D:博士後期) メールアドレス	支部報告
東 京	坂西 由弘 (G2006 年/M2008 年) sakanisy@kajima.com	東京支部では、この 2 年間集まりを控えてきましたが、その中でも出前講義などをオンラインで開催しつつ、卒業生や学生とのつながりを守ってきました。コロナ後は遠方の人も参加できるオンラインと対面式を組合せた会合が主流になるのではないかと思われますが、皆様と再会できることを楽しみにして、今後徐々に活動を再開していきます。
大 阪	高岡(宮田) 次義 (G1977 年) tsugiyoshi.takaoka@okumuragumi.jp	熊大工業会大阪支部土木部会は平成 23 年より通称「大阪熊大土木会」として活動しています。毎年、土木の日（11 月 18 日）に総会開催していましたが、コロナ禍により令和元年を最後に開催できていません。今年度は熊大関西連合同窓会が 1 月 26 日に開催される予定ですが、工業会大阪支部が当番幹事のため、土木部会も連合同窓会に注力することになりました。来年度は 4 年ぶりの大阪熊大土木会を開催する予定です。
山 口	伊藤 信行 (G1978 年/M1980 年) yamaguchiitou@yahoo.co.jp	大変ご無沙汰しております。こちらでは蘇遙会としての人数が少ないため特に活動をしていませんが、新型コロナがまん延するまでは工業会の県支部の中で例年懇親を深めてきたところでした。今後も同様な状況になると思われます。
北九州	二見 昌太郎 (G1994 年) shoutarou_futami01@city.kitakyushu.lg.jp	北九州支部では、約 2 年ぶりに活動を再開しようとしています。6 月には 10 名足らずですが役員会を開催し、夏の幹事会、秋の総会開催に向けて活動していく旨意見の一致を図ったところです。今後、コロナの状況も注視しながら、支部の活動を少しづつ復活させていきたいと思います。
大 分	石和徹也 (G1991 年) ishiwa-tetsuya@pref.oita.lg.jp	現状ではコロナの影響で、全ての活動が実施できない状況が続いている、特に新しく県内へ就職された方については、本当に申し訳なく思っています。今後のコロナ感染状況など見ながら、懇親会の開催や卒業生同士のつながりの一助となる新たな仕組みなどを模索していきたいと考えています。

福 岡	宇治山 智隆 (G1998 年) ujiyama-t2110@pref.fukuoka.lg.jp	佐 賀	岩橋 良憲 (G1999 年) iawahashi-yoshinori@pref.saga.lg.jp
長 崎	三道 チエ (G1999 年) chie.sandou@pref.nagasaki.lg.jp	熊 本	宮崎 晶兆 (G1992 年) miyazaki.akiyoshi@city.kumamoto.lg.jp
熊 本	宮崎 晶兆 (G1992 年) miyazaki.akiyoshi@city.kumamoto.lg.jp	宮 崎	梅田 尚宏 (G2003 年) umeda-takahiro@pref.miyazaki.lg.jp
鹿児島	坂元 圭一 (G1997 年) keiichi-sakamoto@pref.kagoshima.lg.jp		支部活動の詳しい内容は、各連絡担当者へメールでお問い合わせください。

愛媛支部報告

三好 雄也（社環 G2017 年学部卒）

平成 29 年に卒業し、出身地にある愛媛県庁に就職して 5 年が経ちました。

愛媛県では職員の防災士資格取得を推進しており、私も「防災士養成講座」を受講しました。その講義で、熊本地震の際、熊大生が避難所運営に携わるなど地域に貢献していたことが紹介され、当時活動した学生として、また熊大 OB として大変誇りに思いました。

最後に私事で恐縮ですが、本年 3 月末に入籍し、支部の先輩方がお祝いの席を設けてくださいました。楽しいひと時を過ごしましたことをご報告します。

◆支部連絡担当者 羽倉 伸一（G1989 年）
shin1-h@d7.dion.ne.jp



左：三好夫妻 右：愛媛県支部先輩方

◇物故者◇

2021 年 8 月～2022 年 6 月にご連絡があった方を掲載しています。

卒年は蘇遙会正会員となった卒業・修了年、()内は没年月。

■熊本高等工業学校

S18 年卒 黒津 正智 様(2020.11)

■熊本工業専門学校

S20 年卒 渋田 保男 様(2021)
S20 年卒 高畠 静男 様(2020.11)
S23 年卒 河野 寛 様(没年不明)
S23 年卒 渋谷 伍朗 様(2021.4)
S23 年卒 藤田 龍助 様(没年不明)
S23 年卒 松田 忠義 様(没年不明)

S20 年卒 未續 誉 様(2020.3)
S22 年卒 森田 誠喜 様(2020.10)
S23 年卒 河野 正信 様(2020)
S23 年卒 園田 義則 様(2021.5)
S23 年卒 穂積 豊 様(没年不明)

■熊本大学工学部

S28 年卒 内田 稔郎 様(2022.1)
S29 年卒 藤井 信之 様(2021.9)
S31 年卒 南寿 礼次郎 様(2021.1)
S32 年卒 早川 哲郎 様(2021.4)
S35 年卒 原田 伸一 様(2021.1)
S36 年卒 徳永 忠彦 様(2021.2)
S45 年卒 杉山 昌作 様(2021.6)
S53 年卒 中尾 憲一 様(2020.9)

S28 年卒 古本 幸也 様(2020.12)
S31 年卒 後藤 敏盛 様(2021.3)
S32 年卒 稲田 博 様(2021.1)
S35 年卒 岩谷 英雄 様(2020.11)
S36 年卒 一ノ瀬 敏満 様(2021.1)
S38 年卒 是枝 征紀 様(2021.7)
S47 年卒 鬼塚 謙 様(2021.3)
H02 年卒 芦塚 憲一郎 様(2021.9)

■大学院

S47 年卒 松本 弘一 様(2021.6)

■旧職員

技官 甲斐 定喜 様(2008.6)

教授 中島 重旗 様(2021.11)

皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます

◆都道府県別蘇遙会会員数
(登録自宅住所で分類)

2022 年 7 月 6 日現在(物故者除く)

北海道	5	滋賀県	7
青森県	1	京都府	23
岩手県	1	大阪府	79
宮城県	10	兵庫県	60
秋田県	0	奈良県	10
山形県	0	和歌山県	5
福島県	3	鳥取県	4
茨城県	16	島根県	7
栃木県	3	岡山県	12
群馬県	7	広島県	57
埼玉県	46	山口県	62
千葉県	89	徳島県	4
東京都	148	香川県	3
神奈川県	86	愛媛県	19
新潟県	4	高知県	5
富山県	0	福岡県	896
石川県	2	佐賀県	120
福井県	2	長崎県	176
山梨県	3	熊本県	836
長野県	1	大分県	233
岐阜県	6	宮崎県	153
静岡県	5	鹿児島県	145
愛知県	37	沖縄県	10
三重県	5	不明・その他	755
合 計		4,161 名	

※所在は登録連絡先の住所

教職員紹介

教員氏名 (研究室名)	職名	近況
大谷 順 (地盤工学研究室)	教授	現在理事・副学長を務めていますが、併任している工学部は今年度で退職となります。約 30 年間ですが、長年ありがとうございました。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	くまもと花博に行った際にひまわりの種もらったので、小学生以来 50 年ぶりに育てています。ひまわりにもいろいろな種類があるので、どんな花が咲くか楽しみにして、毎朝、水やりをしています。
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	頸椎ヘルニアが改善の兆しを見せるも今度は右腕がテニス肘。珈琲豆の鍋焙煎のやり過ぎか？投げ竿を力任せに振れないのがとても悔しい。それにつけても人類を滅ぼすのはウイルスではなく人間か？
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	教授	コロナ禍も落ち着きを見せ始め、本年度は 3 年担任として主にインターンシップの実施に向けて準備をしています。毎週 OB/OG の方々に講演頂き、当学科の歴史を感じつつ土木職とは何かを改めて噛みしめています。
重石 光弘 (環境材料工学研究室)	教授	ぐるり回ってついに 2022 年は壬寅。巷は“DX”というがこれは単なるデジタル化ではなく価値観の転換。大学も教室も大転換は必至。若き世代の教員と学生に奮起を望む。
張 浩 (河川環境研究室)	教授	コロナ禍の最中に熊大に参り、あつという間な 1 年でした。マスクとソーシャルディスタンスという新しい日常で、顔を覚えるのは大変でした。一方、一期生を迎えることができ、新生活を実感しております。
辻本 剛三 (応用海岸研究室)	教授	熊本地震の時に着任し、コロナ禍での 2 年間の教室長も終わり、蘇遙会の情報誌が発行される頃には教員生活も残り半年余り。体調に留意しながら職務に励みたいと思います。
松村 政秀 (構造力学研究室)	教授	4 年目を迎えました。今年度は M2 が 8 名と多くなっています。1 年目の終わり頃からコロナが流行り出し皆さまとお会いできる機会が少なかったのですが、今年こそ。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	教授	コロナの関係もあり最近、途絶えていた留学生を久しぶりに研究室に迎えました。海外から優秀な留学生に継続して志望してもらうためにも、きちんとした英語の論文をたくさん書き続けないといけないですね。学生と一緒に元気になります。
椋木 俊文 (環境地盤工学研究室)	教授	研究室のホームページを一新しました。是非、一度ご覧ください。今年もインドネシア、フランスから学生を受け入れる予定です。
石田 桂 (水文研究室)	准教授	熊大土木教室では今後広報にも力を入れていく予定です。卒業生の皆様にご協力をお願いすることもあるかと思います。熊大土木の発展のためご協力のほどよろしくお願ひします。
尾上 幸造 (複合材料工学研究室)	准教授	ゴルフを始めて3年が経ちました。ほぼ月1程度で楽しんでいます。もしコンペなどあればお声かけください。
金 淑列 (海洋海岸工学研究室)	准教授	新研究室は 2 年目を迎えており、コロナ前の生活を少しずつ取り戻そうとしています。その点を踏まえて今年度も面白い研究を活発に楽しく進めていきたいです。
才ノ木 敦士 (地下空間工学研究室)	准教授	今年度、一年生担任の役目を仰せつかりました。今後、蘇遙会の皆様方のお力添えをお願いすることもあるかと存じますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	准教授	3 月で 4 年生担任の役目を無事に終えることができました。卒業式は対面で実施し、一人一人学位記を受け取る姿を見届けることができました。集合写真を撮ることもでき感謝しています。
田中尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	熊大 17 年目になる今年、熊本地震から 6 年、令和 2 年 7 月の豪雨災害から 2 年が経ちました。covid-19 の影響もありますが、3 年ぶりに対面の授業も復活しており、いろいろと取り戻していきたいと思います。
星野 裕司 (景観デザイン研究室)	准教授	コロナも落ち着いてきて、また出張や対面の会が増えてきました。移動はくたびれるなと思うこともありますが、やっぱり人と直接会えるのは良いですね。
皆川 朋子 (河川/流域研究室)	准教授	球磨川流域において流域治水と環境再生を進めるための研究・実装を地元の方々、行政、他大学のみなさんと開始しました。よりよい川、地域づくりができるよう学生とともに頑張ってます！

2022 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

吉城 秀治 (地域・交通デザイン研究室)	准教授	外の会議などで話してみると、「実は熊大の土木卒です」といった方が多く、さっそく色々と助けていただいている。今後、ご一緒にできる機会がありましたら、何卒よろしくお願ひいたします。
安藤 宏恵 (地域公共政策研究室)	助 教	昨年度は初めての卒論生を担当いたしました。自分が卒論を書いた時を思い出しながら、どのように接するのが良いか試行錯誤した 1 年でした。今年度はより一層学生さんとのコミュニケーションを大事にして頑張ります。
伊藤 純晃 (水質環境学研究室)	助 教	4 月下旬にアジア・太平洋水サミットが熊本にて開催され、他の先生方と共に一部関わらせていただきました。端役なりに大変でしたが、なかなかない経験をさせていただきました。

★森山 仁志 助教は 2022 年 4 月に徳島大学大学院社会産業理工学研究部へ転任されました。

★円山教授 (4 月 1 日付)、佐藤教授 (7 月 1 日付) が教授に昇任されました。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	松村研究室秘書
	吉永 徹	技術専門員	園山 恵	佐藤研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	下田 万里	大谷、棕木研究室秘書
	佐藤 宇絃	技術専門職員	北園 智子	柿本、皆川研究室秘書
	上田 誠	技術専門職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	橋本 淳弘	技術職員	片山 貴容子	金研究室秘書
	友田 桂子	土木建築工学科土木系事務室	森永 尚子	蘇遙会事務局

新任のごあいさつ

張 浩 ちょう こう (河川環境研究室)

※張教授は 2021 年 8 月より赴任されましたが、前号でご紹介が間に合わなかったため 2022 年度版に掲載しています。



令和 3 年 8 月 1 日付けで、熊本大学大学院先端科学研究所に教授として着任いたしました張と申します。私は、平成 12 年 7 月に北京清華大学を卒業し、平成 17 年 9 月に京都大学において工学博士の学位を取得しました。その後、平成 17 年 10 月から平成 19 年 1 月まで京都大学防災研究所博士研究員、平成 19 年 2 月から平成 26 年 9 月まで京都大学助手・助教、そして、平成 26 年 10 月から令和 3 年 7 月まで高知大学准教授を経て、本学に着任いたしました。

専門分野は土砂水理学であり、これまで流れ・土砂に関する理論とモデル、水工学・河川工学の基礎、水防災と環境再生に関する様々な研究・教育活動に従事して参りました。

近年では、令和 2 年 7 月球磨川豪雨災害をはじめ、毎年のように全国各地で洪水・土砂災害が発生しており、既存防災システムの限界や科学技術の不足が露呈し始めています。また、世界に目を向けますと、災害の頻発に加え、水に伴う環境危機も大きな課題となりつつあります。熊本大学工学部土木教室のメンバーの一人として、学問基礎の根本的な向上に努めるとともに、皆様と連携しながら 21 世紀における人類共通のチャレンジである水災害と環境問題の解決に貢献していく所存でございます。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

吉城 秀治 よしき しゅうじ（地域・交通デザイン研究室）



はじめまして、2022 年 4 月 1 日付けで熊本大学くまと水循環・減災研究教育センターに准教授として着任しました、吉城秀治（ヨシキシユウジ）と申します。

私の出身は大阪市でございますが、高校卒業後は岡山大学に進学し、土木工学を学んできました。2014 年 3 月には岡山大学環境学研究科において博士（環境学）の学位を取得し、2014 年 4 月からの 8 年間は、同じく土木系の学科である福岡大学工学部の社会デザイン工学科にて助教として勤務しておりました。

専門としましては、土木工学の中でも計画系となります。特に「交通」に着目した研究を行っており、熊本大学では「地域・交通デザイン研究室」をスタートさせております。この研究室名には、地域、交通、デザインとの 3 つのキーワードが含まれ、「交通」は言わずもがな、「地域」には「熊本」という地域に根ざして、かつ地域貢献に繋がる実践的な研究を」との思いを、そして「デザイン」には、「人々の感性や行動特性を捉えた上で、よりよく問題解決を図るための研究を」との思いを含めました。学部生 3 名、院生 1 名が所属するまだまだ小規模な研究室ですが、学生とともに精一杯、研究や社会貢献活動等に取り組んで参りますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

「卒業生紹介」ページ作成に向けた ご協力のお願い

熊本大学工学部土木建築学科土木工学教育プログラム/地域デザイン教育プログラムでは、主に高校生やその保護者の方々にプログラムのことをより身近に感じていただき、卒業後の進路をイメージする参考情報としていただくため、プログラム HP に「卒業生紹介」のページを追加することを計画しております。

つきましては、社会でご活躍の本学土木系をご卒業生の皆様にページ作成のためのご協力をお願いさせていただく次第です。ご提供いただけます場合には下記に従って情報をお送りいただければ幸いです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

◆ご提供いただきたい内容

- (ア) 氏名（HP 上には名字のみ掲載）
- (イ) 勤務先名称
- (ウ) 学部・大学院修了年度
- (エ) 出身高等学校名
- (オ) 現在の業務内容について、一言（20-30 字程度）
- (カ) 業務紹介の詳細（100-150 字程度）
- (キ) 高校生への一言（30-50 字程度）

(ク) 顔写真（縦長画像）※できるだけ jpg 形式でご提供ください。※できれば勤務中の服装をお願いいたします。

(ケ) 業務紹介写真（横長画像）※できるだけ jpg 形式でご提供ください ※著作権にはご注意ください。

◆(ク)、(ケ)の画像についてはなるべく大きいサイズの画像（640px×480px 以上）をご提供ください。

◆GoogleForms でのご提出をお願いいたします。難しければメールでのご提出でも問題ございません。画像のアップロードもこちらから行えます。Google へのログインが必要です。

◆メールによるご提出の場合、下記アドレスまで情報をお送りください。

担当・問い合わせ先

土木建築学科 吉城秀治（ヨシキ シュウジ）

TEL: 096-342-3541

E-mail: syoshiki@kumamoto-u.ac.jp

GoogleForms へ
はこちらの QR
コードからア
クセスできます



注) オープンキャンパスや広報動画でも活用させて頂きますので、業務内容等の掲載に関しては、ご所属の許可の上、ご提供いただきますようお願い申し上げます。

研究室配属人数および学部学生数（1～3 年）（2022 年 4 月 28 日現在、休学、10 月入学生、社会人ドクターを含む）

研究室（担当教員）	学部 4 年	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年	研究員・他	合 計
地域工学研究室 (大谷)	3	1	1					5
水質環境学研究室 (川越、伊藤)	5	2	8					15
環境材料工学研究室 (重石)	3	3	1			1	2	10
河川環境研究室 (張)	3							3
応用海岸研究室 (辻本)	3		1			1		5
交通政策分析研究室 (円山)	4	5	4	1		2		16
環境地盤工学研究室 (棕木)	3	2	4		2	1		12
複合材料工学研究室 (尾上)	4	2	1		1			8
地下空間工学研究室 (才ノ木)	3	1	1				1	6
深部地下環境工学研究室 (佐藤)	3	1	4	1			1	10
地域防災研究室 (竹内)	3	1	2					6
河川/流域研究室 (皆川)	3	5	4	3	1	2	3	21
地域風土計画研究室 (田中)	3	5	5	1		2		16
地域公共政策研究室 (柿本、安藤)	6	2	1			1		10
構造システム研究室 (松村)	3	1	8		1			13
水文研究室 (石田)	3	1	2			1		7
海洋海岸工学研究室 (金)	3	1			1			5
景観工学研究室 (星野)	3	5	1			1		10
地域・交通デザイン研究室 (吉城)	3	1						4
合 計	64	39	48	6	6	12	7	182

学部生 1～3 年	1 年	土木建築学科(コース選択前)	129	1 年生は土木建築学科入学生の総数です。2 年生進級時に「土木工学」、「地域デザイン」、「建築学」の 3 つのプログラムにコースが分かれます。蘇遙会学生会員対象は「土木系」の学生であり、土木工学プログラムコースおよび地域デザインプログラムコースの学生となります。また、改組前入学の一部の学部 4 年生は、社会環境工学科卒業となります。
	2 年	土木建築学科土木工学プログラム	39	
	2 年	土木建築学科地域デザインプログラム	25	
	3 年	土木建築学科土木工学プログラム	44	
	3 年	土木建築学科地域デザインプログラム	28	
		卒研未着手	14	

◆令和 4 年 3 月 学部卒業生進路【順不同】

九州経済産業局、経済産業省九州産業保安監督部、国土交通省、福岡管区気象台、大分県、沖縄県、熊本県、長崎県、福岡県、大分市、小郡市、鹿児島市、熊本市、福岡市、株大林組、奥村組(株)、株熊谷組、五洋建設(株)、清水建設(株)、大成建設(株)、前田建設工業(株)、大和ハウス工業(株)、株加根又本店、(株)麻生、扇精光コンサルタント(株)、セントラルコンサルタント(株)、(株)長大、日本工営(株)、NEXCO 西日本コンサルタント(株)、(株)福山コンサルタント、(株)三井共同建設コンサルタント、(株)戸高鉱業社、NTT 西日本、チームラボ(株)、熊本大学大学院自然科学研究部博士前期課程、筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群デザイン学学位、イオン九州(株)、(株)スタイルビー、帰国・その他

◆令和 4 年 3 月 大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

東京大学、(株)建設技術研究所、東亜建設工業(株)、東急建設(株)、東洋建設(株)、日本工営(株)、前田建設工業(株)、八千代エンジニアリング(株)、(株)オオバ、(株)オリエンタルコンサルタント、九州建設コンサルタント(株)、サンコーコンサルタント(株)、(株)社会安全研究所、大日本コンサルタント(株)、玉野総合コンサルタント(株)、(株)地域計画建築研究所、(株)長大、(株)トーニチコンサルタント、日本水工設計(株)、(株)福山コンサルタント、三井共同建設コンサルタント(株)、エム・エム ブリッジ(株)、(株)ユアサメンブレンシステム、地方共同法人 日本下水道事業団、熊本大学大学院自然科学教育部博士後期課程、帰国・その他

蘇遙会学生部

2022 年度学生部コンセプト

3 年 学生部部長 中村 海

今年度のコンセプトは「繋ぐ」にしました。最近になってようやくコロナ禍以前のような大学生活が送れるようになりつつありますが、それでもコロナ禍により薄くなってしまった人と人との関係は、現在も顕著に出てきています。その状況ではありますが、蘇遙会では活動をなるべく行なっていき、土木建築学科のタテやヨコの関係を繋げ、この歴史ある蘇遙会を躍進させ、次世代へとバトンを繋げていこうと考えています。今年度はコロナワクチンの普及が進んできていますが、活動も活発にしていけると思われるので、下火になりつつあった蘇遙会の活動を復活させることができるようにしていきたいです。

1、2 年生歓迎会実施報告

学部 3 年 学生部広報 松田 空

ここ 2 年ほどは新型コロナウイルスの感染拡大により授業やイベントを対面で行なうことが難しい状況が続いていました。しかし最近はワクチンが普及してきたこともあり、2022 年度は対面での授業が実施され、学校も通常運転に戻りました。その状況を受け、私たち蘇遙会学生部は新入生歓迎会として例年と同じように白川の河川敷にて BBQ を実施しました。ありがたいことに 1 年生の参加者は四

十人以上となり、大変賑やかな会になりました。ワクチンが普及しているとはいえ、感染拡大防止に配慮してそれほど大人数にならないように、1 年生は 2 つのグ



ループに分け、時間で区切って参加してもらうという形を取りました。これは昨年の 11 月に蘇遙会学生部で開催した進路相談会 BBQ の方式を参考にしました。私たちは 1 年生の時にイベントに参加できておらず、ましてやコロナ禍におけるイベントの開催ということで今回の BBQ は暗中模索のような状況でしたが、昨年度の活動は大変重要な道でした。

BBQ 開催の前日は雨が降っていたので、足元の状況なども考え開催延期をすることも考えましたが、幸いなことに当日は晴天となり、無事 BBQ を開催することができました。BBQ の最中は参加者たちがそれぞれでいくつかの円を作り、談笑していく、笑い声が絶えませんでした。私たち上級生は焼いた肉を配ったり、新入生たちの輪に入り、雑談をしたり、学生生活についての話をしたりしました。遠目から BBQ の雰囲気を見ると、参加者同士は他学年とも同学年ともかなり打ち解けているように見え、これからの活動にも積極的に参加してもらえるような足掛かりとなる良いイベントになったと感じました。

また、準備や後片付けは役員以外の 3 年生が積極的に手伝ってくれました。私たちの学年はコロナ禍の煽りを受けたこともあり、同級生同士での関係が薄かったのですが、BBQ の準備を通して親睦を深めることができました。

今年の親睦会もたくさんの参加者が集まり、大変賑やかな会になりました。参加してくれた 1、2 年生の皆さん、忙しい中時間を見つけて参加してくれた上級生の皆さん、ありがとうございました。



就活体験記

※この記事内容は 2022 年 7 月時点のものです。

4 年 堀江 純平

私は、大成建設の施工管理、総合職で内定をいただきました。推薦枠をいただけたので、他の人よりも苦労は少なく就活を終えることができたかもしれません。けれど、その中でも大変に感じたことや後悔などはもちろんあります。

まず、後悔についてですが、自分の人生についてもっと考えておけば良かったと感じました。私は元々院進するつもりであったので、将来についてそこまで深く考えたことはありませんでした。就職しようと考えたのが、3 年生の 2 月中旬に行われたインターンがきっかけでした。しかし、一般的に 3 月から ES の提出などが始まるので正直、自分が将来どのようにになっていかか、目標や将来設計について熟考する間もありませんでした。もっと早くからインターンなどに参加し、将来について考える時間を設ければ良かったと少し後悔しています。

就活中に大変だったことは、正解がわからないということです。本当にこの会社でいいのか、やっていけるのか、など考えだしたらきりのないことに少し悩まされました。けれどこれについては、就活の軸を定めることで気にならなくなりました。私の場合は業界の最前線でスケールの大きなことに携わりたいというのが軸でした。少し安い動機かもしれませんが他の人からどう思われようと自分がどう考えているかが重要だと思います。これから就活に取り組む方々は頑張ってください。

4 年 福島 恵奈

私は就活を始めた頃は公務員を目指していましたが、途中で気持ちが変わり、最終的にはゼネコンに内々定をもらいました。最初は自分が何をしたいのか、どういう仕事に向いているのかをあまり考えず、曖昧に就活を始めたことでモチベーションを保つことが大変でした。

就活中にしておいて良かったと感じたことはボランティアです。2・3 年生の時期を中心に災害ボランティアを行っていたことで、面接で自分の強みとして話すことができました。また、土木に関係するボランティアだったので、面接官の方がかなり興味を持ってくださいました。

これと反対に、しておくべきだったと感じたことは、もっと多くの企業の

インターンシップに参加するべきだったことです。インターンシップにあまり行っていなかったので、選択肢が限られてしまい、もっと自分の興味がある仕事があったかもしれませんと感じています。

その他印象に残っていることは、面接では自信がある人が通りやすいと感じたことです。私は緊張しやすく面接官の人にもっと落ち着いていいよって言われていました。でも、回数を重ねるうちに話せるようになつたので、練習して自信を持つことが大事だと思いました。

4 年 野口 伊吹

就職活動、特に面接の時に自分の大きなアピールポイントになったのはインターンシップを行ったというエピソードです。今回内定をいただいた企業の面接ではインターンシップを行った経験を軸に話したのですが、その時の反応がかなり好感度だったことが印象に残っています。また、OB の方と連絡をとっていたことで面接について色々なことを聞くことができたことも有利に働いたと感じます。

就職したい企業のインターンシップにちゃんと行っておいてよかったと思う反面、もっと色々な企業のインターンシップに行っておくべきだということも感じました。面接のとき他社との違いについて質問されることがあったのですが、僕はインターンシップには一つしか行ってなかつたためその質問にはかなり答えづらかったことを覚えています。早いうちからジャンルを絞らずに色々な分野の企業のインターンシップに行っておくことは、就職活動の際にはきっとプラスに働くだろうと思います。夏だけでなく冬にもインターンシップをしている企業はあるので、夏を逃した人も諦めずにたくさん参加するといいと思います。

最後になりますが、僕は面接ではインターンを行った経験を軸に話ををしていて、インターンでのことしか話していないくらいです。僕から伝えられるることはインターンの重要性くらいです。

蘇遙会研修旅行実施の報告

昨年の学生部研修旅行レポートをホームページにアップしています。学生部活動のページをご覧ください。

<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?cat=9>

学生の声 (後輩に向けて)

- 3 年生になってやっと対面授業や蘇遙会での活動が始まり、ようやく大学生活始まった～という感じです。やっぱり対面授業の方が友達もたくさんできて楽しいです！空きコマに友達とお喋りしたりお昼ご飯食べたりするのが大学生っぽくてルンルンしてます（とまと）
- 後輩との関わり方が苦手だったけど蘇遙会で鍛えられた。先輩としての立ち回りは苦手だけど好きな後輩ができたーーーー！（冬子）
- 対面授業が始まって、毎日友達に会えるのはもちろんですが、蘇遙会の活動にも初めて参加することができました！先輩や後輩、普段授業ではあまり関わりのない同級生ともたくさん話す機会ができて嬉しいです！先輩方はみんな優しくて、研究室や進路のことなどもたくさん相談させてもらってありがとうございます！蘇遙会はどの学科などより縦のつながりが強いと思うので是非土木系でお待ちしてます^_^（ぽん）
- オンライン授業では、動画を倍速で見ていて時間短縮になりましたが、課題が今より多くて大変でした。対面授業は早起きしないといけないし、テストも対面になるので倍以上勉強しないといけないので大変です。でもやっぱり対面授業は友達に毎日会えるので嬉しいです。（ぱる）
- コロナワクチンを注射したら筋肉が急激に大きくなりました。気のせいでしょうか。（上腕三頭筋外側頭）
- 先輩のインスタのストーリーに毎回「いいね！」を押していたら、それをきっかけに先輩と仲良くなれました！（火星人）
- トレーニングをひたすらしていたら身体が大きくなって、学部 3 年生になっていました！！僕は工学部ではなく筋肉学部なのかもしれない。（匿名希望）

- リーダーシップを発揮する先輩を演じていたらリーダーシップをほんとにつけることができちゃいました！（あややとうやー）
- 先輩方が蘇遙会の活動の他にもたくさんご飯に誘ってくださったり、キャンプなどを企画していただいたりして楽しいことがたくさん増えました！また、土木のテストは過去問が重要なので、それももらって勉強しています（まーまみーや）
- 訳もわからぬまま進級してたらいつのまにか 3 年生になってて、なんか後輩がきました。いきなり先輩っていうのも悪くない。（MacBook こそ至高）
- 対面授業が始まり、二号館のそれぞれの教室に自宅から何分何秒で着くかのデータが取れました。（わさび大臣）
- コロナ中はオンライン授業が多く、ずっと大学に行ってなかったので、本格的に対面授業が始まり、毎日みんなに会えることの嬉しさを感じている日々です！全く上下の繋がりがなかったので、先輩たちと関わる機会を儲けてくださった蘇遙会の方々に感謝です（みかん）
- 実験のレポートが大変ですが、徹夜でレポートを仕上げきてから外を見ると、朝日がよく頑張った、と褒めてくれますよ。（テルツァーギーの弟子）
- 蘇遙会でタテの繋がりができたことでいろんな立場の人と話す力が身についた気がします。（コミュ力爆弾）
- 土木は河川、地質、構造など色々な事を勉強します。一つのことだけでなく色々なことを学びたい人は是非土木へ！！（オールマイティ・ソーザ）

【編集後記】今年は短い梅雨に拍子抜けしました。近年は「夕立ち」が少なくなっている気がします。ゲリラ豪雨に取って代わられた？/ 昨年までは学内で見かけることが少なかった学生たちも、対面授業が増え、キャンパス内に活気が戻ってきたように感じます。/ 卒業生に寄稿をお願いしていますが、「文章にするようなことがない」とご辞退される方もいらっしゃいます。波乱万丈な体験談よりも、土木教室 OB 同士だからこそ共感できる「土木卒あるある」をお聞きしたいです。（森永）